

「子どもが育ちやすい地域にするために ～地域で何ができるか～」

黒石地区では、本年度、地区を挙げて「子どもが育ちやすい黒石」にするための協議を進め、先日、発表会を実施されました。まさに「学校を核とした地域づくり」につながる大変すばらしい取組です。本号では、その取組の一端をご紹介します。



地域計画推進の一環としての取組・コロナ禍だからこそその集中的取組

各地域には、地域活動の基本となる「地域計画」があります。黒石地区では、地域計画「ゆめプラン黒石」に基づいた取組の確認・見直しを、5つの分野別部会それぞれにテーマを決めて実施してきました。新型コロナウイルス感染症が拡大して以来、地域活動がなかなか取り組めないことから、本年度は、テーマを「地域で子どもを育てる環境・仕組みづくり」に統一し、一年間をかけて地域を挙げて考えていくことになりました。

地域の大きな課題に向けたテーマの設定

子育てがテーマとなったのは、近年の子ども会の加入率の低下による子どもの育ちへの大きな危機感が基になっています。第1回会議では子ども会の現状を通して、子どもとその保護者、そして取り巻く地域や社会の課題を見つけ出し、「地域の子どもを地域で育てるために、何ができるか」について、考えていくことになりました。

テーマ別に5班に分かれて協議

会では、まず、「どんな子どもに育ててほしいか」を参加者にアンケートを行い、願い別に5つのグループを設定して協議を重ね、発表会では、以下のような取組が提案されました。

こんな子どもになってほしい	発表会で提案された取組
①自立、主体性、たくましさのある子どもに	ジュニアリーダーを育成する仕組みの構築
②素直な子どもに	素直さをさらに引き出すための挨拶運動の推進
③やさしさ、思いやりのある子どもに	子どもたちの考えを知るためのアンケートの実施
④ //	地域の協力を得て地区で一つの子ども会の立上げ
⑤ //	自治会を通しての交流活動の実施など

他地域でも参考としていただきたいこと

- ・地域を挙げて、子どもの育ちについて年間を通して継続的に協議を重ねたこと
- ・地域計画の具体的な推進の一環として取り組んでいること
- ・まず地域で育てたい子どもの姿を考え、共通理解をしたこと
- ・取組を通して、地域の大人が子どもの育ちを自分事として考えたこと
- ・取組の成果を地域の各組織・団体で具体的に実現に向けて継続するようにしていること